



since 1926

自分が好き 友だちが好き このまちが好き

横浜市立下野谷小学校

学校だより

9 月号

令和3年9月1日

いま せいいっぱい
今できることを精一杯に

こうちょう たかはし よしなり
校長 高橋 義成

「いつまで続くのだろう。」「新しい課題と向き合わなければ・・・。」私たちは、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の延長を経験してきました。長期間に及ぶ心理的な不安は、心の受け皿からあふれそうです。小さな子ども達を育む保護者の方のご心痛はいかほどかと心に刺さります。

このようなときに、パラリンピックの選手から感動と勇気をもらいました。昨年度、本校に来ていただく予定だったパラリンピアンは4人の候補者と調整を進めていました。その一人、水泳の成田真由美さんは、今まで獲得した金メダル15個を全部持って来てくださる方です。そして、全校の子ども達に順に触らせていただける心の持ち主です。15個の内1つだけ、当時ライバルだったドイツの選手のご家族にあげてしまったそうです。「1番のライバルでした。病気で亡くならなければ、必ずその選手が取っていたメダルでした。」とおっしゃっていました。なんとか予定を立てて下野谷のプールで泳いでいただく準備をしておりましたが、多くのご病気と闘ってこられた過去もあり、オリ・パラ組織委員会理事の仕事と練習のプールに行く以外は、外出を全くしないで感染を避けていたということでした。

また、車椅子ラグビーの方とも準備を進めていました。来ていただく選手は検討中でしたが、あの迫力とチームワークを子ども達に知って欲しいと考えていました。銅メダルを獲得するまでの道のりは、私に感動と勇気を与えてくれました。キャプテンの池選手が、「今までやってきたことを信じて、仲間と一緒に、今できることを精一杯やるだけです。」というようなお話をされていました。

世の中では、感染症の中心がデルタ株に移り、小学生にも感染者が増えている状況です。8月末まで臨時休業となり、9月1日からの分散登校も学校現場では青天の霹靂でした。保護者の皆様には、それ以上の驚きとご心配を与えてしまったと思います。池選手の言葉をかみしめて、これまでやってきた感染症対策を粘り強くやっていこうと教職員一同で共通認識をもちました。デルタ株の強さに負けないように、パーティーや間仕切りを追加購入し、次亜塩素酸水などをボトルでたくさん用意するなど追加対策をいくつか増やして、子ども達を迎えたいと思います。私たち教職員には、基本的にテレワークという働き方は向いていません。教職員の健康を守ることも大切です。そして、未来の原石である子ども達に寄り添って守っていきたいと思います。

改めて、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。